

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

**達成度（評価）**  
**A**：十分達成できている  
**B**：おおむね達成できている  
**C**：やや不十分である  
**D**：不十分である

<b>学校名</b>	唐津市立 北波多小学校
<b>1 前年度 評価結果の概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国・県学習状況調査やC R Tの結果から学年において達成状況に差が生じ、「学力の向上」はまだ十分とは言えない。今後は、児童の達成状況に応じた補充の時間を確保し、基礎学力・活用力の定着と学力向上の取組を強化する必要がある。さらに協働的な学びを取り入れた授業づくりをより一層推進し、主体的・対話的な学びを深めていきたい。</li> <li>・児童の自己肯定感、自己有用感、他者尊重の気持ちを育てる「心の教育」の活動をさらに充実させたい。</li> <li>・「業務改善・働き方改革」については、課題が残った。一人一人の「働き方改革」への意識を高めることが大切である。業務改善は進んできているが、さらにもう一歩進め、教材研究や研修の時間を生み出せるようにしたい。</li> </ul>
<b>2 学校教育目標</b>	「笑顔」の子どもづくり！～自己肯定感を高める教育を通して～
<b>3 本年度の重点目標</b>	①基礎・基本の確実な定着と学力の向上 ②人権教育の充実 ③業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減

<b>4 重点取組内容・成果指標</b>	<b>5 最終評価</b>
----------------------	---------------

(1)共通評価項目				(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有する。 ・校内研究を活性化し、全職員が人権が尊重される授業づくりの視点を取り入れ、「深い学び」のための工夫に日頃から取り組むようにする。	A	・年間を通じて、各自でアクションプランの見直しをし、授業の計画に活かすことができた。 ・校内研で、コロナ禍であってもできる範囲で全員がG研授業を実践し、自分の授業を見直すことができた。タブレットを取り入れた授業にも挑戦した。	A	・タブレットを取り入れながらも、基本は対面での授業だと思う。困ったときは原点に帰るといように、授業づくりについての原点(アクションプランや授業づくりのステップ1・2・3など)を見直して授業改善に努めてほしい。
	○「書く活動」の充実	○国語、算数を中心に、「書く活動」を取り入れた割合が70%以上		・国語、算数を中心に、授業の中に書く活動を位置づける。(自分の考えを表す時間やまとめの時間、ふりかえりの時間など工夫して取り入れる)	A	・「ひとりでタイム」で自分の考えをもつために書いたり、「みんなでタイム」で話し合っ深めた考えやふり返りを書いたりする時間をとることができた。タブレット活用との兼ね合いが今後の課題となった。	A
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○集団の中で積極的に活動したり協力したりできた児童85%以上	・各種行事等の取り組みに「自己肯定感を育てる」というめあてで一貫した活動を仕組む。 ・縦割り班での遊びや掃除を通して、異学年交流に取り組む。 ・人権教室「かがやきタイム」の充実を図り、「仲間づくり」に視点を置いた取り組みを実践する。	B	・新型コロナウイルスに細心の注意を払いながら、運動会の応援練習を通して、互いに励まし合う気持ちや自己肯定感を育てることにつなげることができた。 ・代表委員会で「笑顔いっぱいになるためのボランティア大作戦」について話し合い、縦割り班で活動を決めて、ボランティア活動に取り組むことができた。 ・全校人権集会では、「みんなちがってみんないい」というテーマで自分の良さに気づき自己肯定感を高めることができた。	B	・「6年生を送る会」の出し物で手話をしている学年があった。大きくなったときにどこかで活かされる。心の教育が浸透していると感じた。 ・コロナ禍で制限がある中でも、子どもたちは精一杯楽しんでがんばっていた。表情も明るかった。心の教育は種まき、どこでスイッチが入るかかわからないから種まきしておくことは大事。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学級が楽しい」と感じる児童85%以上	・Q-Uテストや生活アンケートの結果を週1回の連絡会で情報共有を行うと、共に学級経営に生かす。 ・いじめ防止対策委員会を中心にいじめ防止対策を行う。年2回の拡大委員会を開き、情報共有と適切な対応を行う。	B	・生活アンケートで「学校が楽しい」と感じる児童が90%達成している。また週一度の生徒指導協議会で、問題行動だけでなく児童の気になる様子など、様々な情報が交換できた。来年度は問題行動が起きた時の担任との連携や相談役の充実を図る。	B	・いじめられていると思って相談してくればよいが、いじめられている人は内に隠してしまうことが多い。いろいろな行動や様子を見て、子どものサインをキャッチしてほしい。 ・いじめは、未然防止、早期対応が大切。もう大丈夫ということではなく、永遠の課題ともいえること。
	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○キャリアパスポートの有効活用ができたと回答した教師85%以上	・キャリア教育に関わる諸活動について、キャリアパスポートを系統的に位置づけ、自身の変容や成長を自己評価させる。 ・郷土について学ぶ体験活動をカリキュラムに位置付ける。	・さがんキッズスポーツチャレンジに取り組むことで4月と3月に「体育に関するアンケート」を行い、体を動かすことが好きな児童が90%以上。 ・残業率5%以内を目指す。	B	・キャリアの形成を見守ったり、振り返りしながら自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたものになるよう掛けた。 ・活動を通して、学校、家庭及び地域における学びを自己の成長に活かそうとする態度や強度を養う心を育むことができた。	B
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●健康に食事は大切である」と考える児童生徒95%以上	・さがんキッズスポーツチャレンジに取り組むことで4月と3月に「体育に関するアンケート」を行い、体を動かすことが好きな児童が90%以上。 ・残業率5%以内を目指す。	B	・アンケートの結果から、約9割の児童が運動や給食の時間を好んでいる傾向にあることが分かった。 ・給食に関するアンケートでは、「毎日完食」と回答した児童が約85%、「ときどき残す」が約15%という結果になった。来年度は「毎日完食」する児童が90%になるように、給食指導をつづけていきたい。	B	・約9割の児童が運動や給食の時間を好んでいることは好ましい。 ・コロナ禍であるが、スポーツチャレンジや持久走大会など、できる範囲でこれからも取り組んでいってほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・会議1時間以内で実行する。 ・全職員で学校行事を見直す時間を設ける。 ・業務記録を有効活用し、月毎の時間外勤務の目標時間を設定し、意識を高めていく。 ・データの共有化を図る。	A	・業務記録を有効活用し時間外勤務削減の意識化が図れた。時間外勤務の学校全体平均(1月末迄)は、29.74時間。昨年度より平均約3時間削減できている。月勤務45時間以内は95%であった。 ・コロナ禍の中での行事や各種活動の見直し、今後の取組の方向性にも活用できる。 ・資料を事前配布し、会議1時間以内実施がほぼできた。	A	・働き方改革に対する自分の中での意識改革が進んでいるのは素晴らしい。 ・時間外勤務は減っているが、自宅に持ち帰りの仕事をしている人も多くいるだろう。本当の意味での切り替えができ、リフレッシュできるようになるといいと思う。

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○安全教育の充実	○児童・職員の危機管理意識の向上	○「安全に気をつけて生活ができている」と感じる児童85%以上	・各種訓練(交通安全・火災・地震・防犯・原子力)を行う。 ・危機管理研修や安全訓練を通し、避難訓練マニュアルを見直したり安全配慮意識を向上させたりする。	B	・各訓練の振り返りや反省点をもとに来年度に向けての訓練の在り方の見直しを行った。 ・避難訓練のマニュアルや役割分担を見直したり、避難経路の安全性をより正確に確認した。	B	・日常の遊びや生活における安全教育は、家庭の協力も大事。 ・避難訓練で役割分担をすると、自分の役割だけは分かっているが全体が見えていないこともある。ブラインド方式の訓練を公民館では進めている。
○地域や家庭との連携	○開かれた学校づくり	○学校評価アンケートで「保護者、地域と連携できている」肯定的評価85%以上	・学校活動に合った学校支援ボランティアとの連携を推進する。 ・「学校だより」「はなまる連絡帳」「学校ホームページ」を活用した広報活動の充実を図る。	B	・感染症予防策を取りながら、2学期から3学期始めにかけては学校支援ボランティアを推進することができた。「保護者・地域と連携できている」と回答した保護者93%。 ・「学校だより」を毎月地区回覧し、広報活動の充実を図った。学校HPの更新を密にしていきたい。	B	・2学期から、読み語りなどのボランティアを再開できたことはよかった。今後も様子を見ながら取り組んでほしい。 ・学校ホームページの更新は、ぜひお願いします。
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、情報共有	B	・校内支援委員会や、ケース会議を開き細かく児童の様子や成長の過程など細かな話し合いを持つことができた。また各学級の担任とも児童の様子や情報をまめに交換し、来年度の支援体制や対応の仕方を話し合うことができた。	B	・発達障害など個別の支援が必要な児童は、年々増えていると聞いている。これまでも、研修を行ったり情報交換を行ったりされてきているので、今後も継続していってほしい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

<b>5 総合評価・次年度への展望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学力の向上」では、アクションプランや校内研を活用した授業づくりの見直しや、授業の中で「書く活動」の位置づけが定着したこともあり、児童の学力も向上しつつある。今後は、小中連携での取組の研究やタブレット活用により更なる向上を図りたい。</li> <li>・本年度もコロナ禍のため、予定していた活動は十分にできなかったが、感染対策を取りながらできる限りの行事や活動を行ってきた。全ての項目で「概ね達成できた」(B評価)以上の結果となった。職員で共通理解のもと自己肯定感を高める活動や工夫した教育活動に取り組んだ成果とも言える。今後も効果的な教育活動が図れるように、共通理解・共通実践に努めていきたい。</li> <li>・来年度もコロナ禍の中での教育活動が予想されるが、本校の宝である「学校ボランティア」等の活用も推進しながら、教科横断的な教育活動ができるように努めていきたい。</li> </ul>
-----------------------	--